

## 源氏物語「若紫」テスト問題へー/3

【一】本文について、設問に答えよ。

日もいと長きに、つれづれなれば、夕暮れのいたう霞みたるに紛れて、かの小柴垣のもとに立ち出で給ふ。人々は帰し給ひて、①惟光朝臣とのぞき給へば、ただこの西面にしも、持仏据ゑ奉りて行ふ尼なりけり。簾少し上げて、花奉るめり。中の柱に寄りゐて、脇息の上に経を置きて、いと悩ましげに読みたる尼君、②ただ人と見えぬ。四十余ばかりにて、いと白うあてに痩せたれど、つらつきふくらかに、まみのほど、髪うつくしげにそがれたる末も、③なかなか長きよりもこよなう今めかしきものかな、とあはれに見給ふ。清げなる大人二人ばかり、さては、童べぞ出で入り遊ぶ。中に、十ばかり④にやあらむと見えて、白き衣、山吹などの萎えたる着て走り来たる女子、あまた見えつる子どもに似るべうもあらず、⑤いみじく生ひ先見えて、うつくしげなるかたちなり。髪は扇を広げたるやうにゆらゆらとして、顔はいと赤くすりなして立てり。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。

①朝臣 ②簾

問二 傍線部①とあるが、

(1)なぜこのような行動をとったのか。その理由にあたる部分を本文から十五字以内で探して、はじめと終わりの三字を抜き出せ。

(2)「のぞき給へ」のような行為をなんとするか。四字以内で書け。

問三 傍線部②の現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

- ア ただ、人には見えない。
- イ 普通の人に見えない。
- ウ 高貴な人に見えない。
- エ 安い人に見えない。

問四 傍線部③の意味を五字以内で書け。

問五 傍線部④とあるが、この部分の文法的説明としては不適切なものを選び、記号で答えよ。

- ア 断定の助動詞が用いられている。
- イ「や」は係助詞で「む」に係っている。
- ウ「む」は推定の助動詞の連体形である。
- エ 用言は合計三つである。

問六 傍線部⑤を現代語訳しなさい。

問七 本文の出典と作者を漢字で答えよ。